

通常有すべき安全性

- 日頃から万が一を想定して、管理しているため池が危険な点がないかどうかを常に確認しておくことが必要です。
- 下表は自己診断用のチェックリストの例です。このようなチェックリストを用いて客観的に確認することが重要です。

【自己診断項目】

区分	内容	確認
日常的な施設の巡回・点検等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進入する出入口の施設がなされているか ・ 転落防止用安全柵が破損して人が入れるようになっていないか(破損していれば要補修) ・ 看板は表示が消えかかっていないか(消えかかっていれば要補修) ・ 小さい子供が理解できる表示板の内容となっているか ・ 安全柵等を越えて遊ぶ子供や釣り人がいないか ・ 高齢者でも管理しやすい状況となっているか ・ 夜間外灯の設置の有無と点灯の確認(堤体周囲の道路の交通状況も確認する必要) 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
構造上からみた危険性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造上の問題(深さや垂直な側壁)あるいは水深等から、転落した場合に、子供が脱出できる構造かどうか 	<input type="checkbox"/>
立地条件からみた危険性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路、住宅密集地に位置していないか 	<input type="checkbox"/>
過去における転落事故の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去に転落事故が発生していないか ・ 周辺の施設で転落事故が発生していないか 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
安全管理に係る啓発活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺自治会等との情報交換(安全柵の設置、通水時期の周知等) ・ 転落の危険性等の周知(かんがい期に入る前に広報誌等でため池の危険性を周知) 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

※参考：「土地改良施設安全管理の手引き」(平成18年3月 全国水土里ネット)

住民等への説明(危険性の認識)



高齢者の昇降時用のすりの必要性について

小さい子供が理解できる表示板の設置

